

おきなわのいまいゆ Vol. 11

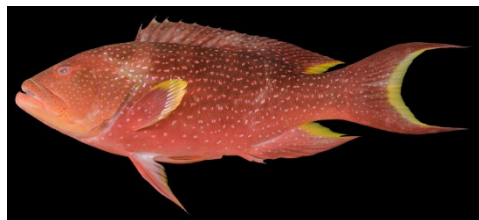
ながじゅーみーばい

(バラハタ属)



～生活史についての研究～

① まずは自己紹介



バラハタ



オジロバラハタ



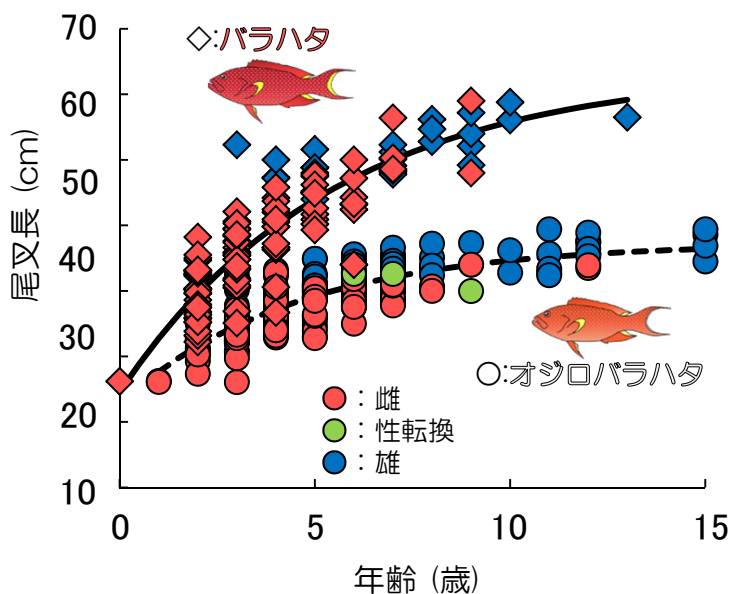
“ながじゅーみーばい”の刺身

沖縄では、バラハタとオジロバラハタという魚を共に“ながじゅーみーばい”と呼びます。“ながじゅー”は長い尾を意味し、“みーばい”はハタ科魚類の総称です。2種は、よく区別されることがなく市場に揚げられますが、尾の先が黄色いとバラハタ、白だとオジロバラハタといったふうに見分けることができます。

“ながじゅーみーばい”は、和歌山県より南からインド・太平洋のサンゴ礁域や岩礁域に住んでいます。多くのハタ科魚類が岩陰でじっとしていますが、“ながじゅーみーばい”は、水中を泳ぎ回るタイプです。青い海の中で泳ぐバラ色の“ながじゅーみーばい”は美しく、ダイバーにも人気の魚です。

2種はよく似ていますが、生息水深に違いがみられ、浅場に住むバラハタは潜水漁、深場にも生息するオジロバラハタは延縄で多く漁獲されます。平均単価 1,500 円/kgと高値がつく水産重要種となっており、刺身やバター焼き、煮つけ、魚汁にして食べると美味しい魚です。

② 体の大きさと年齢



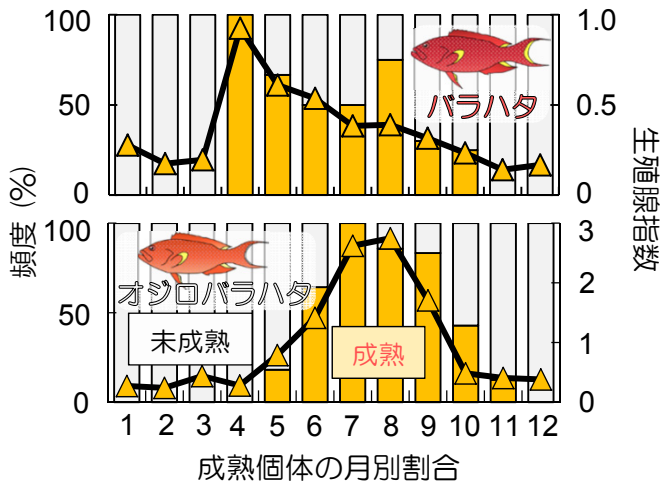
“ながじゅーみーばい”の年齢と体長

よく似た2種ですが、オジロバラハタの最大体長が約40 cmであるのに対し、バラハタは、最大約60 cmとより大きくなることが分かりました。それでは、バラハタの方が長生きなのではないでしょうか？

沖縄島で漁獲された2種の標本を約200個体ずつ集め、年齢を調べたところ、最高齢はバラハタで13歳、オジロバラハタで15歳でした。オジロバラハタは、小さくてもより長生きであることが分かりました。

また、2種ともに最高齢の個体は雄で、雄は雌より高齢である傾向がみられました。

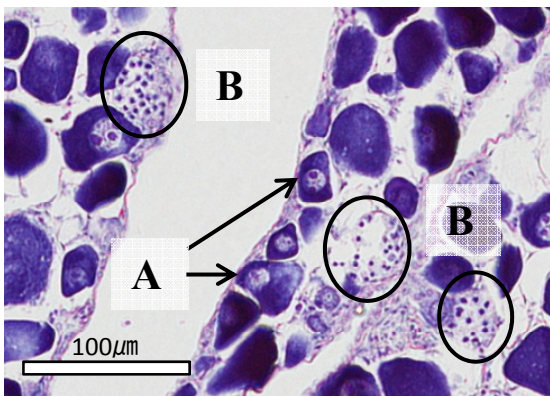
③ いつ産卵する？



“ながじゅーみーばい”がどれくらいの大きさ・年齢から卵を産むようになるか調べたところ、バラハタでは体長39 cm (4歳)、オジロバラハタでは26 cm (2歳)から卵が産めるようになることが分かりました。

また、バラハタでは4～10月、オジロバラハタでは5～11月に卵巣が大きく発達し、成熟した卵組織を持つ個体の割合が増えたため、この期間が産卵期であると考えられました。

④ 性が変わる？

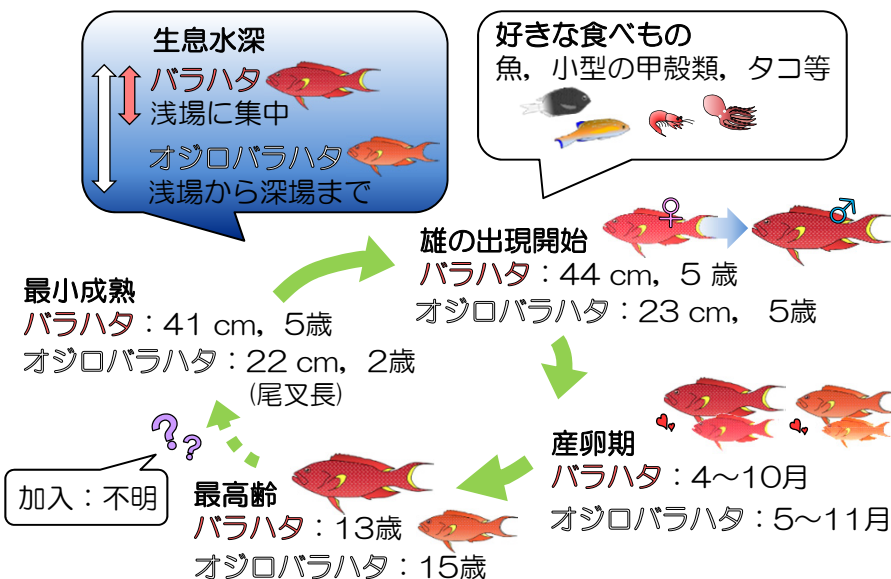


卵細胞（雌の組織，A）と精細胞（雄の組織，B）が混在し、性転換していると考えられる細胞

②の体長と年齢の節では、大型・高齢個体に雄が多いことが分かりました。体長クラスごとに雌雄の割合を整理すると、大型になると段階的に雄の割合が高くなっています。実は“ながじゅーみーばい”は、成長にともない雌から雄へ性転換する魚なのです。性転換中の個体には、卵細胞の中に精細胞が存在します。

バラハタは体長約44 cm (5歳)、オジロバラハタは約23 cm (5歳)で雄へ性転換する個体が出ることが分かりました。

⑤ まとめ ～“ながじゅーみーばい”の生活史～



今回の研究によって、よく似た2種の“ながじゅーみーばい”でも、最大体長や寿命、成熟・性転換する体長や年齢などが異なることが分かりました。

漁獲体長制限による小型魚の保護など、ながじゅーみーばい”の資源を持続的に利用していくためのルール作りには、こうした種ごとの特徴を研究によって把握することが重要であると言えます。

⑥ 参考資料・文献

・平成27年度沖縄沿岸域の総合的な利活用推進事業に関する委託「水産重要魚類の生活史と遺伝的集団構造の解明」研究成果報告書

執筆担当者：西村美桜（琉球大学大学院理工学部）